

せんだん



お知らせや
学年通信なども
閲覧できて便利！
ホームページも
チェックして
みてください！

発行所 東広島市立中黒瀬小学校 PTA 広報部
〒739-2613 東広島市黒瀬町橋原 10018-1
TEL (0823) 82-2024

大解剖！ 中黒瀬小学校PTA

PTAとは「Parent-Teacher Association」の略で、直訳すると「保護者と教職員の団体」。児童生徒のために無償ボランティア活動を行うもので、各学校で組織されています。役員を経験された保護者の方も多いと思いますが、自分が入ったことのない部会や委員会の活動については、なかなかわからないもの。さらに、ここ3年はコロナ禍で例年通りの活動ができなかったこともあり、活動内容を知る機会も減ってしまいました。そこで今回は、中小PTAの活動をまとめてご紹介！

会員構成

会員(教職員含む)	432名
役員(保護者)	222名

こうして見ると半数以上の方が役員なんです！さらに教職員の方々も、それぞれ役員や各部の担当をされています。

母親代表

部会や委員会とは別の独立した立場で、選出されるのは学校から1名。中小では総務部との連携も。市PTA連合会の決定により、来年度からは廃止されることになりました。

- 黒瀬町PTA母親代表会議への参加
- 広島県母親代表研修会への参加
- 広報誌「大きなお世話」の発行

常置委員会

学級委員

- PTCの運営 **中止**
- プール当番表作成 **中止**
- 学年会計簿の監査
- 卒業贈答品等の調整(6年生)

6年生はドローンによる人文字撮影など、PTCに代わる思い出に残るイベントを開催したそうです。

今年度はプール当番表を作成したものの、プール開放が中止となっており、日の目を見られず…

地域代表委員

- 登校班の編成
- 交通当番(登下校見守り)の調整
- 子ども110番に関わる業務
- 運動会での地域別対抗競技の調整 **中止**

各地域の子供会の中から選出される傾向が強く、子供会がない地域での選出や、子供会に所属していない方との連携が難しい面もあるようです。

※「中止」表記があるものは、コロナ禍のため令和4年度は中止。

コミュニティスクール導入と、PTAのこれから…

コミュニティスクールは、保護者、地域の代表、学識経験者等で組織された「学校運営協議会」を設置した学校のことで、東広島市でも導入が進んでおり、地域と一体になって学校運営を進めることができる仕組みです。これにより、学習や部活動等の支援、花壇整備、登下校の見回り、防災訓練等の協働活動を、「外部からのお手伝い」という形ではなく、同じ組織の仲間として積極的に参加してもらうことが可能になります。これまでは教職員と保護者によるPTA活動で行っていたことも、地域の方々と一緒にやるようになるため、今後のPTAの形も変化していくものと思われます。

保護者の役員さんに聞いてみました！

令和5年2月に役員222名の皆さまにアンケートを実施し、約66% (147件) の回答をいただきました。集計しながら、学校運営は本当にたくさんの方々の善意と支えで成り立っているんだな…と感じました。ご意見は今後のPTA活動にも活かしていければと思っております。ご協力、本当にありがとうございました！

Q. 役員になった経緯は？	Q. 立候補の理由は？ (複数回答あり)	Q. 役員をしていて良かったことは？
未回答 33.8% (75件)	以前やったことがあるから 18件	PTA活動に参加する機会が増えたので、学校への関心や活動に対して、以前より興味が湧いたように思う。(総務部)
立候補 33.3% (74件)	くじでそのものに当たるより自分で選んだほうが良いから 14件	コロナ禍ということもあり活動自体は少ないのですが、逆にそのくらのほうが負担にならず良かったと感じました。(生活指導部)
その他 6.8% (15件)	興味があったから(楽しい学校や子供の様子を見たい等を含む) 10件	普段お話をする機会のない保護者さんたちと話す機会ができた。(厚生部)
	仕事等の都合を考え参加できそうなものを選んだ 6件	学校に行くことで、先生とお話できるのは良いところだと思う。(学級委員)
	どれかやるしかなかったから 7件	新しい友達になれるお母さん方がいたり、学校の様子がよくわかりました。(学級委員)
	何か役に立ちたかったから 7件	学校に行くことで、先生とお話できるのは良いところだと思う。(学級委員)
	知り合いと一緒にやるために 4件	今年度役員をやったら来年度はやらなくていいなどの決まりを作って欲しい。(学級委員)
	その他(できそうだった・やったことがなかったから等) 7件	仕事や家のこと、他にも色々なことがある中で、積極的に活動していくのは物理的に無理が生じているのではないかと感じます。(地域代表委員)
	特になし 3件	

専門部会

総務部

- 各種部会の相互調整
- 各行事の補助
- 他の部会に属さない業務の処理
- 市PTA連合会等の行事への参加

市民スポーツ大会や体育振興のお手伝いを担当する「体育振興部会(理事)」という役職もあります。

「児童の地域社会生活・自主的集団生活を健全育成する」という活動目的からの名称に。

生活指導部

- 制限リユース運動 **中止**
- 資源回収
- ペルマークに関する作業

ペルマークを切る、企業別に仕分け、整備作業に参加できなかった方に点数集計を分配する等。

厚生部

- 運動会の駐車場誘導、駐車場準備
- 運動会の運動場片付け
- 運動会の競技者募集

「福利厚生のための活動をする」という目的からの名称に。

「運動会担当」とも言える部会。「朝は早いけど、5月で役目が終わるから気が楽」とのご意見も。

整備部

- 環境整備作業の計画、準備等
- ペルマークに関する作業

「望ましい学校環境を整備するための活動をする」という目的からの名称に。

道具等の準備と片付け、参加者受付、作業の説明やまとめ役、お茶配り等。

広報部

- PTA広報誌「せんだん」の制作(取材、アンケート、データ作成等)

年2回、夏休み前と春休み前に発行。前期はA3、後期はB3サイズで制作。

とんど部

- とんど作りの作業計画、事前準備
- とんど焼き後の残火処理、片付け

今年度はコロナ禍のためお餅焼きを中止し、1基のみ制作。作業量は満りましたがお餅焼きを実施する場合は、やはり2〜3基は必要とのことです。

長子児童のクラスで役員を決めるため、低学年では対象保護者の人数が少なく、ほとんど全員が役員に…なんてこともしばしば。集まりは昼間だと仕事のある方都合がつかなく、夜だと夕飯や習い事の時間と重なってドタバタ…他にも様々な負担がある中で、学校運営のために協力して下さる役員の方には、本当に感謝でいっぱい！

気になる！聞きたい！思いをぶつけて！ 教育長インタビュー！

いちば かずや 市場 一也 教育長

＜職歴＞
昭和59年 賀茂郡大町立 神田小学校(教諭)
昭和62年 東広島市立 東志和小学校(教諭)
平成14年 東広島市立 川上小学校(教諭)
平成14年 広島県教育委員会 呉・賀茂教育事務所(指導主事)(主任指導主事)
平成18年 // // (主任指導主事)
平成20年 // // 教育部 指導第三課(課長補佐 兼 道徳教育係長)
平成20年 東広島市教育委員会 学校教育部(教育調整監)
平成24年 // // (教育調整監 兼 指導課長)
平成25年 // // (教育調整監 兼 指導課長)
平成25年 広島県教育委員会 教育部 義務教育指導課(教育指導監)
平成26年 東広島市立 高屋西小学校(校長)
平成30年 東広島市立 龍王小学校(校長)
令和3年 東広島市立 龍王小学校(校長/定年退職・再任用)
令和4年 東広島市教育委員会 教育長

教育の現場や行政って、なんだかお堅そう…実際のところ、教育行政の方はどんな思いと考で教育に携わっているの？ そんな疑問をズバッと質問！ 令和4年4月に着任された新たな教育長、市場一也さんにお話を聞きました！ (インタビュー日：令和4年8月25日)

学校現場と行政の違いとは？

「以前は小学校の先生をされていたとのことですが、学校の現場と行政とは、どのような違いを感じられましたか？」
やはり見え方が違いますよね。行政に関わることで、遠くから見るという視点を持ってました。一歩離れて、また色んな学校を見てみると、その違いや動きが俯瞰できる。「県」という視点から見るとさらに遠くになって、各市町の中で違っていることを比較しやすくなる。そういう見え方があるところまで進んでいくと、そこは非常に大切なことだと思います。学校の現場でも、例えば校長の立場だと、学校評議員さんや学校運営協議会の委員さん、外部企業の方、また地域の方の声を聞く機会があります。違う立場の方に学校の中を見てもらうことで、違う見え方を見つけれられます。PTAから見ても違っているのではないですか？ 例えは役員さんになられて学校の中に入り、先生たちの様子を見たりお話をしたりする中で、役員さんでないときに外から見ていたのと、また違った見え方が生まれませんか？
「確かに、全然違います！ 先生との距離も縮まりますし、見えないところでの苦労等の発見もあって…そういうものを知っているだけで、保護者の考え方も変わりますね。ですよね(笑) 立つ位置によって見えないところが見えるので、色んな立場、角度から見るということはすごく大切だと思います。」

文科省ホームページに掲載されている「現在の教育に関する主な課題」について

いじめ・暴力等のトラブル

「いじめや暴力等」「児童生徒の問題行動は依然憂慮される状況」とありますが、行政として、それらのトラブルに対する指針や、現場に指導していることはありますか？
まずは早期発見、早期対応ということ、組織的に行うのが大事だと考えています。中学校であれば生徒指導主事、小学校にもそういった役割を担う方がいますから、そこを中心に早期発見。おかしなことと思ったらすぐに事実を確認するとか、早ければ早いほうがいいです。事実確認をして、それが違っていればそれはそれでいいですよ。空振りはおక్కえなんです。ただ見逃しがいけないんです。おかしなこと思っているけども放置しておく見えないところってありますから、そういうたいしめ等には、とにかく高くアンテナを張っておく。保護者や子供たちがいじめアンケートを行っているのも、色んな情報をもとに早期発見できるようにするためです。また、当然その前提には、「いじめは絶対に許されない」という考えをしっかり持つ対応することが大切だと、各学校の方には指導しています。
「いじめアンケートは、確かに定期的に行われていますよね。あれは各学校が独自にしているのではなく、市の学校全てで行っているということでしょうか？
そうですね。学校によっては児童生徒の全員と対面して面談する等、全員面談しているところもあります。アンケートには書けないことも、話の中で見つけられるかもしれません。」

先生方の多忙化・精神疾患による休職

「教員をめぐる課題」の中で、先生方の残業や多忙化、精神性疾患による休職者の増加が挙げられていますが、どうお考えでしょうか？
勤務時間の例としては8：10～16：40なのですが…子供の作品を見たり、次の日の準備をしたり、今後の授業の進め方を考えたり、あとは学校の会計だとか色んな事務処理もあつたり、先程のお話のようにいじめがあれば集まって打ち合わせする時間も必要です。そういった時間の確保は、子供たちがいじめはなかなか難しいので、子供たちが下校してからということになります。特に小学校だと、担任はずっと授業があり、一方で、先生たちは研修も少なくちゃいけないんです。そうすればやっぱり、時間っていうのは効率的に使っていかなくちゃいけない。だから今、ビルドアップスクラップ、どこを削るかというのが重要ですね。本来の先生の仕事でないものを削っていく、ということ。給食費も今は会計に変更しましたが、昔は子供たちが持ってきたお金を先生たちが数えていたので、例えば10円足りなくなっていることもあって、「カバンの中調べてみんさい」とか…(笑) ああいったことは、徐々に減ってきてはいますね。
先生が子供たちと向き合う時間、授業の準備も大切ですから、そういった時間をいかに確保するか。そこに重きを置いて考えています。市・県・国のほうからも、少しでも先生の業務改善になるような人を充てるという改修もかかっていますね。

不登校に関する支援

「不登校児童に対する支援措置の充実等が課題」とされていますが、どんな支援が行われているのでしょうか？
不登校であるとか、発達障害であるとか、色んな子供さんがいますよね。それに対応して、空いた教室があれば確保してそこで学習できるように。市のほうではフレンドスペースもあつたり、県であればスクールSという県立教育センター(八本松)に行つて個別で学習したり、オンラインで自宅から学習できたりします。民間の施設もありますよね。その子に応じた学習が選択できるような場を、より多く持とうという狙いがあります。子供たちの社会的な自立のために、社会との繋がりをしっかりと持てるような環境作りを考えています。
「学校という場所以外も選択できるということですね。確かに昨今、多様性が重要視されています。」
そうですね。誰一人取り残さない、ということですね。方法は多様ですね。みんな一緒の方法でなくて、色んな方法、環境を作っていくという「個別最適」という言葉があつて、個別に最適な学びをいかに作っていくか、その子に応じたものをいかに担保していくかという。
「実際のところ、大変そうですね…」
そうですね(笑) 大変なことではありますけども、多様性に即した環境を作っていくというところで、これらなんですよね。その一つがICTでしょう。学校へなかなか行けないとなれば、オンラインの授業も可能ですが。ただ先生がどのように対応していくか、普通の授業しながらオンラインもするというのは難しいですから、そのあたりはこれから検討していくところでね。

教育長とは？

「教育長」とは、どういったお仕事をされるのですか？
主に学校教育に関すること、生涯学習に関すること。一言で言うと、子供から大人までの学びをしやすいような環境を整える、ということかと。
「教育委員会とは違うものですか？」
教育委員会の中に含まれているというか、教育委員会の中に教育長が入っていて、委員さんが何人かいらっしゃるという形です。
「教育委員会は、どういった組織なのでしょう？」
学校教育では小・中学校の全体の業務等を監督する立場で、直接子供さんを指導するわけではなく、先生たちを取りまとめているという感じですね。先生たちを支えて、子供たちによりよい指導ができるようにしていく仕事です。校舎の修繕や新築、エアコンの取り付け、電子黒板やタブレットの導入など、教育の環境作りもしています。

どんな取り組みをしている？

「教育長に着任されてから、何か新しい取り組み等はされましたか？」
ある程度は予算をもって、今年度は、昨年度からの取り組みを引き継いだものが基本です。新たな取り組みとなると、新しい予算を組むときに…という流れになりますね。先生の働き方改革として各学校の電話対応が自動音声になったのも、以前から方向性が決まっていたものを実施したということになります。
「今後予定している取り組みはありますか？」
中学校の部活動が地域へ移行するという取り組みがスタートしていきます。また、西条を中心にどんどん人口が増えている地域がある一方で、人口が減少している地域もあるの。各学校の特色を考えながらしっかりと支えていくことも考えています。学校とというのはやはり地域のコミュニティであるという面がありますから、そこをしっかりと支えていくというのが必要になってくるかと思えます。
「確かに人口は、地域によって格差がありそうですね。」
地域差なく、小さな学校でも同じように子供たちがしっかりと力をつけていけるように、魅力ある学校を作っていくことを目指しています。さらに先生たちを支えて、そこに移行し住んで教育を受けさせたいと感じる保護者の方がいっぱいあったらいいですね。そうやって学校を選択できるように形になればいいと思います。

多様性・ジェンダー平等・気になる校則…

「多様性やジェンダー平等についてはどのようにお考えですか？」
夏休みに先生たちの研修を市が実施するんですけども、今回はICT、特別支援、そしてLGBTQというテーマで研修しました。子供たちがそういったことで悩んでいるときに相談できるようにするためには、やっぱり教職員が理解を深める必要がありますからね。あとは例として、中学校の校則で「男子は」とか「女子は」とか、そういった部分は見直しをかけていますし、小学校もそういった形で改善するような方向で今動いています。
「校則と言うと、ツーブロックの髪型禁止について都議会で取り上げられる等、全国ニュースにもなりましたよね。」
今はそういった校則も含めて、社会的に見て合理的な校則にするように、改善と見直しを行っています。主体性というところで生徒や保護者の意見を聞くか、またそれをオープンにし、みんながある程度「なるほどな」と納得感がある形で決めることが必要だと思えます。子供たちが関わることで「自分たちで決めた」という気持ちが生まれれば、心の有りよう、持ちようも変わりますよね。小学校だと「男子だったらこういう服装」「女子だったらこういう服装」となっていますが、そのあたりも検討していくことも必要かと思えます。そこでもLGBTQを意識していく、子供たちの心理的な苦痛がないように配慮していくか、やっぱりいいですね。
「古い考え方で止まったままにせず、東広島市ではしっかり対応されているんですね。」
多様性というのは色んな考え方があるということですから、昔の考え方を持っていていい方も一つの考え方として認めつつ、それを共有していく。これって正解はないかもしませんが、納得できる「納得解」を見つけていくことが大事だと思います。

子供たちへの思い

「東広島の子供たちに、何を育ててほしいと思われていますか？」
これからの子になりたい、あなりたいとか、やっぱり夢をあげたいですよね。これからの社会は子供たちが作っていくわけですから、自ら主体性を持って挑戦できるようにしたいです。国際化という時代の中でもたくましく生きていける子供になってほしいです。これからの社会は本当に不透明で、この先どうなるかわからない。だから何か課題があれば、それを自分で解決していける力や創造力が必要になると思えます。
教育委員会が令和4年4月に出した「学校教育レベルアッププラン」という指針があるのですが(※QRコードから閲覧可)、こういった目標設定や取り組みを平成元年からずっとやってきているんです。
ただ先程も言ったように、正解はないかもしないんです。外国の方であれば価値観も違うし、そうやって色んな人の中で問題を解決していくためには、どこかで折り合いを付けながら、何かを作り上げていくことになる。そのためにどんな力を付けていかなくちゃいけないか、ということですよね。「知・徳・体」と言うように、単に知識だけの力を持っているだけでなく、問題を解決する力であるとか、学習を調整する力であるとか、心豊かであるとか、基礎である体力も必要、バランスが大切だと思いますね。
「そういったことを考えたり共有するために、先生方は研修がたくさんあるんですね。」
授業も先生が一方向的に教えるのではなくて、子供たちが自分からやってみようと感じられるような学びに変えていけるように、校内研修であれば、先生が授業力を高めるために教育委員会が指導主事が支援に行ったり、退職された先生方が授業で支援に回ったり、若手、中堅の先生たちの人材育成ですね。先生自らが授業力を高め、子供たちのわかる授業をどうやってつづけていくか、先生たちで協働して進めていくためにも研修を行っています。
あとは当然外国語の教育、それから外国籍の子への日本語の指導や、理数教育もこれからは重要ですね。東広島には広島大学がありますから、特に連携しています。他にもいじめ、不登校、特別支援、幼保小連携、グループ、S・D・G等、結構色々あるので、教員の研修、教育研究は大事ですね。子供たちが先生に対して「私のことをわかってくれる」という気持ちを持ってもらう、児童生徒理解を基盤に、「関わり」ということが重要だと思います。
「関わりは聞くほど大変なお仕事ですね…」
さらに教育長の立場だと、生涯学習もあります(笑) 学校以外の学びの場ですよね。子供も大人もずっと学び続けたい、どんな時代に遅れていきますから。時代とともに職業も大きく変わるので、そういったときに自律性や協働性をもってものを作っていくように、学び方をしっかり身に付けておく必要があると思えます。
「最後に、教育にとって最も重要なものは何だと思われていますか？」
「一人一人」でしょうね。全体というより、一人一人の個を伸ばす。色んな場面で、最終的には一人一人が大事になっていきますからね。

これまでの「せんだん」では学校行事についての記事が多かったのですが、今回は思い切って毛色を変えた内容にしてみました。文字ばかり感は否めませんが、なかなか興味深い内容になったのではないかと思います。教育長さんのインタビューでは、とても丁寧かつ明らかに質問に答えていただき、なんだか東広島市の教育の未来が楽しみになりました。ご協力くださった全ての皆さま、本当にありがとうございました！(広報部部长)